

車向けが反動増で急回復し、マンションなど建築用も戻りつつあることが要因とされる。炉別生産では、転炉鋼が前年同月比 1.9%減の 720 万トンで 2 カ月連続減、電炉鋼は 5.3%増の 228 万トンで 4 カ月連続の増となった。

財務省が発表した 10 月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は 336 万 5,000 トンと前年同月比 0.3%減で、8 カ月連続の減少となった。前月比では 3.0%となり、2 カ月ぶりに増加した。しかし、11 月からはタイ向け輸出が洪水の影響で激減が見込まれ、鉄鋼輸出は再び減速感が強まる懸念される。鉄鋼輸入は長期化する円高を背景に、前年同月比 28.4%増（6 カ月連続増）、前月比 41.9%増（2 カ月ぶり増）の 79 万 4,000 トンと高水準となった。国別輸出では、韓国・台湾などのアジア NIE's 向けが 109 万 9,000 トン（前年同月比 10.5%減）と減少が続き、中国向けも 52 万 3,000 トン（同 11.4%減）と 7 カ月連続の前年割れだった。ASEAN 向けは 104 万トンと再び増加へ転じた。アジア以外では米国向けが 12 万 6,000 トン（同 47.9%増）、中東向けが 11 万 1,000 トン（同 5.0%減）、EU 向けが 5 万 4,000 トン（同 10.3%増）、ロシアが 3 万 5,000 トン（同 4.3 倍）となった。国別輸入ではアジア NIE's からが 49 万 6,900 トン（同 67.9%増）、中国からが 12 万 9,600 トン（同 15.6%増）と増加が続いている。

◆10～12 月期粗鋼生産計画，2,821 万トン——経産省集計

経済産業省が鉄鋼メーカーからヒアリングした 10～12 月粗鋼生産計画の集計結果は、前期比 4.7%、130 万トン増の 2,821 万トンとなった。先月に紹介した同省が策定した需要見通し（2,718 万トン）を約 100 万トン上回る高い水準となった。普通鋼鋼材の国内向け生産は、前期比 6.9%増の 1,270 万 5,000 トンとなった。大震災の影響から復旧した自動車産業が生産を増やし、建設も回復することから、高炉が 37 万トン増（同 4.6%）を計画し、電炉は首都圏を中心に建築着工床面積が増え、夏季の定期修理からの反動増もあり 45 万トン（同 11.6%）増を計画している。普通鋼鋼材の輸出向けは 634 万 4,000 トンと同 0.8%減を計画しており、円高影響やアジア市況の軟化から環境は厳しく、微減となる。特殊鋼鋼材は同 8.5%増の 540 万 4,000 トンの計画で、自動車や建設機械向け需要好調を受けて生産回復の動きが続く。

しかし、最近になって内外で下振れリスクが顕在化している。タイの洪水に関しては、月間 40～50 万トンの鋼材直接輸出に加えて、サプライチェーンの混乱による間接輸出の影響も懸念される。また、円高の長期化は輸出への影響だけでなく、国内需要にとっても悪材料となる。さらに、過剰感が続いている鋼材在庫の調整も今後の課題となる。

◆高炉 4 社の通期業績見通し

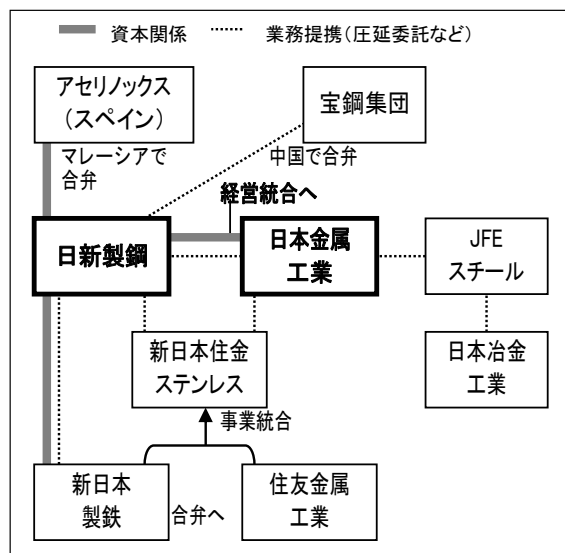
新日本製鉄、JFE ホールディングス、住友金属工業、神戸製鋼所の高炉大手 4 社は、2011 年度上期実績と通期の業績（連結）見通しを発表した。連結経常利益見通しは新日鉄が 1,800 億円（従来の予想は 2,300 億円）、JFEHD は 1,000 億円（同 1,300 億円）、住金は 1,000 億円（同 1,000 億円）、神鋼は 500 億円（同 500 億円）となっている。新日鉄、JFE は、欧米の信用不安、円高進行による国内景気の不透明感、タイの洪水影響などにより、従来の予想を下方修正した。住金は懸念材料はあるものの、シームレス鋼管が堅調なことから従来予想を据え置き、神鋼も予想を据え置いているが下期の鉄鋼部門の経常利益見通しは前回よりは悪化するとしている。

◆日新製鋼・日金工，経営統合へ

高炉メーカーでステンレス生産第3位（2010年生産量54万トン，シェア17.4%）の日新製鋼とステンレス専業で生産第5位（同28万トン，9.1%）の日本金属工業は，11月15日に2012年10月の経営統合に向けた検討を開始することで合意したことを発表した。持株会社を設立して，両社は完全子会社として傘下に入る。統合すればステンレス事業のシェアは26.5%となり，現在第2位のJFEスチール（2010年シェア18.6%）を抜き，トップの新日鉄住金ステンレス（同30.0%）に迫ることになる。両社は，①最適な生産体制の構築と設備投資によるコスト競争力向上，②販売網の相互利用，③共同技術開発，④原材料の共同調達，⑤海外ネットワークの相互活用一などの施策を実施し，統合効果を最大化している。両社は11月中に両社長を共同委員長とする「統合検討委員会」を立ち上げて，統合後の組織体制や事業計画などについての検討を着手する。

日新製鋼には新日鉄が9%強出資しており，今後日新と新日鉄との関係がどうなるかが注目される。また，JFEスチールとステンレス第4位の日本冶金工業の動きが注目される。

図-1 ステンレス各社の主な関係



(出所)日本経済新聞(2011.11.16)

◆10月世界粗鋼生産，1億2,400万トン

世界鉄鋼協会が発表した世界（64カ国）の粗鋼生産は，1億2,397万9,000トンで，前年同月比6.2%増で25カ月連続増，前月比では0.9%増と5カ月ぶりに増加した。前月比で中国は5カ月連続で減少したが，中国以外は2カ月連続で増加した。64カ国の粗鋼日産量は前月比2.4%減と2カ月ぶりに減少した。中国の日産量は同6.7%減と4カ月ぶりに減少した一方で，中国以外は1.3%増と2カ月連続で増加した。64カ国の製鋼操業率は76.5%と前月比2.2ポイント低下し，前年同月比では1.0ポイント上昇した。主要国の日産量の前月比をみると，先進国ではEU27が0.7%増と2カ月連続増，北米が1.5%減と3カ月ぶりの減，日本が3.2%増と2カ月連続増となった。新進工業国ではインドが横ばい，韓国が7.5%増，ブラジルが2.1%減となった。1～10月の生産累計では年率15億1,000万トンで，残り2カ月が10月並みのペースで推移すれば15億トンを1,000万トン以上上回る。ただし，中国が過去2カ月で減産を強化しており，年間の粗鋼生産量が15億トンを下回る可能性もある。 □